

ART OF IBARAKI

Ibaraki Ceramic Art Museum



加守田章二は、土が本来もつ生命感を、フォルムと肌合いとの両面から表現する作家です。加守田は、京都市立美術大学を卒業後、茨城県日立市の大甕陶苑を経て、遠野と益子を行き来しながら制作していました。須恵器のような焼き締めの硬い器と、焼成後に化粧土を掻き落として土肌の生命感を再生したかのような器を発表し、それまでの日本陶芸にはない世界を展開しました。本作は、発表する度に極めて高い完成度を伴い変容する加守田の造形世界が、円熟期を迎えた頃に制作されました。本作にみられる「曲線彫文」は、刻々と作風を変えた加守田の造形のなかでも、最も充実した表現といえます。手びねりから生み出される有機的なフォルムに波状の刻線が刻まれ、堅牢な土の肌合いと相俟って、独特の律動感を生み出しています。土との濃密な対峙から獲得された本作の神秘的な世界観は、発表とともに絶大な賞賛をもって迎えられました。

近現代日本陶芸の巨匠たち 茨城県陶芸美術館

表紙では、茨城県陶芸美術館所蔵作品の中から、文化勲章受章者及び重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品を中心に、日本の近現代陶芸を語る上で欠かせない作家たちの作品を紹介します。

加守田 章二

かもだしょうじ

昭和8年(1933)ー昭和58年(1983)

「曲線彫文壺」 きょくせんちようもんこ

昭和45年(1970)

茨城県陶芸美術館蔵

H25.1×w18.3cm

主な内容

- ▼ 建設フェスタ 2017 開催
- ▼ 経営者研修会に 80 人参加
- ▼ 各地で中学生が建設を体験

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

建設フェスタ2017開催

10月29日(日)笠松運動公園 屋内水泳プール西側特設会場

本会をはじめとする県内の建設業関係団体は「建設フェスタ2017」を10月29日(日)、ひたちなか市の笠松運動公園屋内水泳プール西側特設会場で開催しました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、県内外から来場した親子連れなど8000人に、建設業の魅力や公共事業の必要性などをアピールしました。

親子競演丸太切り



雨にもかかわらず沢山の子どもたちが参加してくれました

本会では、親子競演丸太切り、建設作業体験リレー、チャリティバザー、スコップでビンゴ、アシストスーツ体験コーナーなどを実施。またボトルキャップアート、建設現場を描いた小中学生の図画作品表彰式などを行いました。

そのほかの団体でも、消波ブロック製作や測量体験、珪藻土入り漆喰で光る泥団子づくり、ミニクリスマスツリーづくりなどを行い、訪れた子どもたちなどに社会資本整備の重要性や建設産業の魅力を伝えました。



スコップでビンゴ



建設作業体験リレー

親子連れなど約8000人が来場

建設業の必要性や魅力をアピール

重機体験



アシストスーツ体験

◀先端技術の体感ブースも設置



消波ブロック製作



ストローハウス

ミニツリー製作



建設現場いきいき描写 優れた絵画作品を表彰



建設フェスタにて、本会が建設雇用改善事業の一環として実施している「建設現場の風景を描いた小・中学生の作品絵画」の表彰式を執り行い、最優秀賞受賞者に賞状と記念品を手渡しました。優良賞以上の作品は、今月25日から県庁2階の県民情報センターに展示します。

▶集まったキャップは世界の子どもの
わたしのワクチン代となります

ボトルキャップアート



変化への対応と利益追求を

経営者研修会開き方策学ぶ

本会の経営企画委員会（鈴木一良委員長）は10月12日、研修会「小さくても利益の出せる建設企業を目指そう」を水戸市の県建設技術研修センターで開催。協会員など約80人が参加し、環境変化に対し必要利益や許容費用を明確化する方法などを学びました。



鈴木委員長

研修会に先立ち、鈴木委員長は「今後の建設業の見通しは決して明るいものではない。会社経営の方向性、適正規模、利潤の確保などを考えていかなければならない」とあいさつ。

会では、(株)建設経営サービスコンサル調査事業本部の滝口兼悟コンサルティング事業部長が講演。「厳しい経営環境の中、必要な利益を確保し、利益



適正規模の見極め方などを学びました

ベースで物事を考えるべき。環境の変化に対応する方向性を持たなければならない」とアドバイス。

続けて◇業界環境の変化と建設企業の生き残り方策◇3年後の自社の姿を考えよう◇自社の適正規模を見極めよう—などをテーマに、経営戦略の方向性や必要利益額の設定方法などについて、事例を交えながら説明しました。

建災防支部長表彰に10社と3人 無事故の現場など称える

茨城県産業 安全衛生大会

茨城労働基準協会連合会（鬼澤邦夫会長）や建設業労働災害防止協会県支部（岡部英男支部長）など県内で労働災害防止に取り



本会の柴副会長が茨城労働基準協会連合会長表彰功績賞を受賞

組んでいる6団体が主催する県産業安全衛生大会が10月12日に水戸市の県立県民文化センターで開催されました。茨城労働基準協会連合会長表彰では本会副会長の柴勝氏（(株)柴建設）が功績賞を受賞したほか、建設業労働災害防止協会県支部長表彰では、本会会員の10社と3人が受賞しました。おめでとうございます。

主な受賞者は右の通りです（敬称略）。

【厚生労働大臣表彰〔優良賞〕】

◆竹中・鈴縫・秋山・岡部特定JV＝日立市新庁舎整備事業第1期本体工事（日立市）

【茨城労働基準協会連合会長表彰〔功績賞〕】

◆柴勝（(株)柴建設、筑西市）

【建設業労働災害防止協会県支部長表彰】

〔事業場賞〕

◆(株)小國工務店（北茨城市）◆池田技建工業(株)（つくば市）◆(有)森嶋建設（常陸大宮市）◆丸三商事工業(株)（常総市）◆大竹建設(株)（取手市）◆塚本建設(株)（行方市）

〔現場賞〕

◆(有)並木建設（土浦市）◆山下工業(株)（境町）◆河北開発(株)（常陸太田市）◆(有)大沢工務店（大子町）

〔功績賞〕

◆木村晃（大昭工業(株)、茨城町）◆柳沢克彦（(株)柳沢工務店、筑西市）◆横田吉孝（常総開発工業(株)、神栖市）

【林業・木材製造業労働災害防止協会県支部長表彰〔事業場賞〕】

◆(株)龍崎工務店（常陸大宮市）

中学生に職業としての魅力アピール

CCI 茨城

谷和原中で倉庫建設に挑戦

本会などが組織するCCI茨城（県魅力ある建設事業推進連絡会議）は10月12日、つくばみらい市立谷和原中学校で木造倉庫の建設体験学習を実施。同校の2年生114人が建設未来協議会県南地区会（赤塚剛幹事）の会員の指導のもと、校倉工法による木造倉庫の組み立てや油圧ショベル操作を体験し、建設業への理解を深めました。

木造倉庫の組み立てでは、は



じめに傾いた柱を修正する「屋起こし」をしたあと、木材を組み込み。油圧ショベルでは土を掘り起こしました。指導員も驚くバケツさばきを見せた藤田裕雅さんは、「楽しかった。将来、オペレーターになろうかなと思う」と笑顔で話してくれました。



大子支部
活動報告

大子中で建設体験学習

大子支部（大藤博文支部長）は10月31日、大子町立大子中学校で建設体験学習を行いました。当日は2年生78人が参加し、測量や重機の操作を体験しました。

作業に先立ち、大藤支部長が「われわれ建設業は、皆さんが使う道路や建物を作り、大きな災害時には住民の生活を守るという大切な仕事をしている。本日の体験学習を通じて、将来われ



われと一緒に働いてくれる人が増えたらうれしい」とあいさつ。

生徒たちは8班に分かれ、建設機械や測量機器の操作を体験。重機を操作した生徒は「最初は難しかったが、操作していくうちに少しずつコツを掴めた」と声を弾ませていました。

上半期の取組や就職状況など共有

魅力ある職場推進委と建設労働者確保推進委

本会が主催する「若年者に魅力ある職場づくり事業推進委員会」と「建設労働者確保育成事業推進委員会」が11月8日、水戸市青柳町の県建設技術研修センターで開かれ、上半期における高校生などを対象とした建設現場見学会や現場実習、普通科高校インターンシップの実施状況、雇用管理改善促進事業の取り組みなどを説明しました。

その後、各校が就職状況を報告。土浦工業高校は、就職希望者が製造業に流れている現状がありながらも、3人が2年次に現場実習に行った企業



下半期開催予定の研修会

11月22日(水)	中堅社員リーダースキルアップ研修 (茨城県建設技術研修センター)
12月1日(金)	新規入職者等フォローアップ研修 (茨城県建設技術研修センター)
平成30年 3月5日(月)～ 7日(水)	新規入職者就職前準備研修 (富士教育訓練センター)

へ就職することが内定。下館工業高校では、建設工学科で就職を希望している17人のうち8人が地元工務店などの建設業へ進むとのこと。

意見交換では、学校側から「生徒たちは就職先を選ぶ上で休日を重視している」などの意見がでました。県は、公共工事の平準化を図るために導入するゼロ県債などについて説明。本会も含め受発注者ともに週休2日などの働き方改革に取り組んでいきます。

請負金額が21.3%減少

29年度上半期の 県内公共工事動向

東日本建設業保証(株)茨城支店が前払金保証実績から見た茨城県内の平成29年度上半期(4～9月)の公共工事動向(県内の施工場所が対象)によると、保証取扱高ベースの請負金額は1897億5800万円となりました。国や県が強力に早期発注に取り組んだ前年の同期に比べ21.3%減で、水準はほぼ平成27年度並みとなりました。件数は3512件で前年同期比10%減。発注者区別では国、独立行政法人等、県が大幅に減少し、市町村は微増。地域別の構成比は県央が27.3%で最多となり、以下、県南26.1%、県北21.8%、鹿行12.9%、県西11.9%の順となります。

○累計(平成29年4月～9月)

(金額単位:百万円)

	平成29年度		平成28年度		対前年度増減率	
	件数	請負金額	件数	請負金額	件数	請負金額
国	149	15,364	213	25,043	-30.0%	-38.6%
独立行政法人等	62	8,291	68	15,729	-8.8%	-47.3%
県	1,405	51,043	1,815	82,395	-22.6%	-38.1%
市町村	1,783	106,587	1,653	105,757	7.9%	0.8%
地方公社	21	1,334	36	2,149	-41.7%	-37.9%
その他	92	7,136	116	10,064	-20.7%	-29.1%
合計	3,512	189,758	3,901	241,140	-10.0%	-21.3%

土浦支部
活動報告

暴力追放へ 連絡会議開く

土浦支部（佐々木勇支部長）は、県建設業暴力追放推進協議会土浦支部の連絡会議を10月24日に支部会館で開催し、支部員など約120人が参加しました。佐々木支部長によるあいさつの後、土浦警察署組織犯罪対策係長の菊地徳幸氏の講話と、八坂神社の禰宜（ねぎ）である本間隆雄氏の講演を聞き、暴力追放を再確認しました。



竜ヶ崎支部
活動報告

76人が献血し 貴重な血液提供



竜ヶ崎支部（細谷武史支部長）は10月14日、龍ヶ崎市建設業組合（佐々木孝夫組合長）とともに、龍ヶ崎市保健センターで献血ボランティア活動を実施。12回目となることしは76人が貴重な血液を提供しました。

県赤十字血液センターは「この時期は献血者が少ないため、建設業従事者の献血は大変ありがたい」と感謝を述べていました。

常陸大宮支部
活動報告

安全意識向上へ 合同研修会開催



常陸大宮支部（高野潔支部長）は10月4日、県常陸大宮土木事務所（富田広美技監兼所長）、県造園建設業協会県北支部（田中資康支部長）とともに、工事現場担当技術者研修会を県常陸大宮合同庁舎で開催し、総勢約100人が参加。労働安全衛生法やハンドガイド式および肩掛け式の除草機械の操作方法などを学び、安全への意識をさらに高めました。

大子支部
活動報告

安全大会開き 労災撲滅誓う

大子支部（大藤博文支部長）は10月18日、平成29年度災害ゼロ推進安全大会を県大子合同庁舎で開催し、支部員66人が参加。水戸労働基準監督署の佐川正孝署長による講話や杉山満安全衛生課長による特別講演で安全衛生意識の高揚を図ったほか、大会宣言を行い安全で快適な職場づくりに努力することを誓い合いました。



積算スキル向上を図る

実務講習会に50人参加



本会は10月20日に、県建設技術研修センターで平成29年度土木工事積算実務講習会を開催し、会員企業の技術者など約50人が参加しました。参加者たちは、土木工事積算基準マニュアルを活用し、積算基準・歩掛の改定概要や設計書の作成手順・様式、施工パッケージ積算方式などについて学んだ後、演習問題に取り組み、さらに理解を深めました。

働き方改革推進を

茨城労働局が本会へ要望



茨城労働局の田澤修二労働基準部長が10月16日に本会を訪れ、朝型勤務やフレックスタイム制度の導入などの具体策を挙げながら、長時間労働削減など「働き方改革」に向けた取り組みに関する周知・啓発への協力を求めました。本会の田山寛治専務理事は「人材確保には『働き方』が大きなポイントになると思う」と話し、PRに協力する旨を伝えました。



会員の動向

〈代表者変更〉

- ▽ 太田支部
(有)石井建設 石井 嘉行 → 石井 あつ子
- ▽ 境支部
(株)朝日建設 新谷 勝 → 新谷 道子

ちよつと言



今回で24回目となる「建設フェスタ2017」が10月29日(日)、ひたちなか市の笠松運動公園で開催されました。県内の公共団体や建設産業に関連する数多くの皆様の協力のもと開催しているフェスタですが、業界では、特に、将来の担い手の確保・育成が喫緊の課題とされ、さまざまな対応策が打ち出されているなかで、この「建設フェスタ」も建設産業に関する情報や魅力を発信する重要な場であることを再認識し、建設業の担い手確保の一助となるよう継続して取り組む必要があるのだろう。(S)